

② 有識者の助言等により、野生鳥獣の目撃や被害等の情報の地図化とともに体制や対策の見直しを進めた事例

効果的な鳥獣被害対策と 担当者の負担軽減のための市の体制づくり

事例対象地：埼玉県飯能市

団体：飯能市鳥獣被害対策隊

H P : city.hanno.lg.jp/

キーワード：

体制の見直し

地域防災

1. 概要

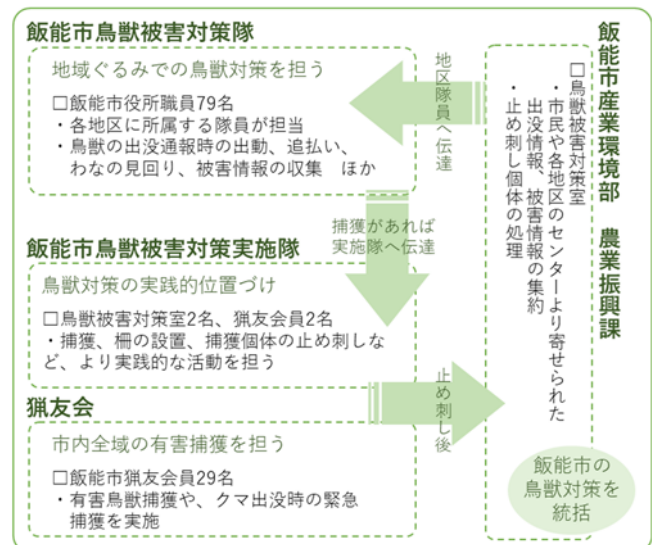
飯能市では、市職員による「飯能市鳥獣被害対策隊」を設置しており、役所内で広く対策隊員を募集し、役割分担により個人の負担を最低限にとどめながら体制確立を行ったことが特徴的。対策隊員には、消防団経験者の職員が多いことから防災意識も高く、集落生まれの職員が対策に取り組むことで、住民の協力と同意が得られやすい。また、対策隊員による地域の見回りは、結果的に集落の高齢者を見守る福祉の機能も発揮している。

2. 取組の経緯

市域の7割を森林が占め、ニホンザル、イノシシ、ニホンジカによる農作物被害等が問題となっていた。平成27年には「飯能市鳥獣被害防止計画」を策定し、更なる被害の悪化を防ぐため、平成29年4月に「飯能市鳥獣被害対策隊」を設置した。

3. 実施体制

飯能市における鳥獣被害対策組織は、鳥獣被害対策室員2名と猟友会員2名からなる実施隊4名、市役所内の各課から有志で参加する鳥獣被害対策隊79名及び市内全域での有害鳥獣捕獲を行う猟友会員29名によって構成されている。組織の統括は農業振興課に設置した鳥獣被害対策室が行い、実施隊等の各組織に所属するメンバーが防護柵の設置や有害鳥獣の捕獲を実施している。



4. 取組のポイント

- 対策隊は「地域ぐるみの鳥獣被害に強い地域づくり」の実現を目指して、住民と共に活動することを重視している。
- 対策隊は市内の山間部を5地区に分け、各隊員は主に自身が住む地区の隊に所属し、各集落における鳥獣被害や目撃情報の収集、防護柵の設置やサルの追払いの支援、有資格者による有害鳥獣捕獲等を行う。
- 止め刺しの作業を実施隊員に一任することにより、対策隊員の精神的負担の軽減を図っている。